



Corporate Social Responsibility

CSR report 2015



トランテックス

CONTENTS

トップメッセージ	01
会社概要	02
商品紹介	03
お客様	
お役立ち活動	05
品質マネジメント	06
アフターサービス	07
従業員	
人材育成	08
雇用促進	09
健康維持・増進／労使関係	10
安全衛生	11
環 境	
環境マネジメント	13
環境保全コスト	15
環境パフォーマンスデータ	16
環境目標と実績	17
省資源・省エネルギー・水質保全	18
調 達	19
社会貢献活動	20
コンプライアンス	21
コーポレートガバナンス	22

トップメッセージ



株式会社トランテックス
代表取締役社長

谷川 史郎

足元を固めながら一歩ずつ進む

わたしたちはトラックボデートップ架装メーカーを目指し、企業として一段と大きく成長するために日々努力を重ねておりますが、企業活動の基本として安全・品質・コンプライアンス・環境・社会貢献等の取組みに対しては、着実にそして一歩ずつ足元を固めながら進むことを心がけています。どの項目も一つとして疎かにはできませんが、「安全は全てに優先する」という原点に立ち返り、安全に対しては人や時間を重点的に投入し、災害防止に向けた取組みを全社的に行っております。当社に関わる従業員が安心・安全に働くことができる職場であることが当社の成長の基盤となるため、一人ひとりが災害の未然防止に対する強い意識をもつ組織をつくりたいと考えております。

また、企業はいかなる経営状況に於いても、コンプライアンスの順守に傾注していなければいけないと考えております。役員・従業員一人ひとりの不適正な言動が企業に多大な影響を与えることは議論の余地はなく、とはいえ、一朝一夕にコンプライアンス意識の醸成を図ることはできないため、研修を通じて地道にレベルアップを図っていきます。

成長戦略で目指す未来の姿

当社は「輝きと感動でトップを目指す！」スローガンのもと、これまでの商品や生産体制に止まることなく、全く新しい構想に基づいた業務改善を進めていきます。商品開発段階や設計段階では、新構想商品として柔軟かつ開発負担の少ない魅力ある商品づくりを進めながら、お客様のオーダー内容ごとに合わせて行う受注設計にかかる時間を大幅に短縮していきます。生産段階では、新構想商品の導入による組立工程での作業時間短縮による高い生産性確保と作り易さによる品質向上の実現を目指していきます。また、営業担当者の受注情報を設計・製造部門に展開する基幹システムの再構築を進めることで、事務作業の効率化を図っていきます。このような取組みを通して、これまで以上にお客様のご期待に沿える高付加価値の商品・サービスをご提供しつつ、企業の持続的な成長にも結び付けていきたいと考えております。

また、冷凍車の販売については、2014年度には従来の完成車シリーズに冷凍車タイプを追加し、市場に投入致しました。お客様にもご満足していただける装備を備え、価格面や納期面でもご期待に沿うものであると思っております。加えて、コンビニエンスストアへの配送をされるお客様向けには、軽量化と結露対策を施した観音扉式移動間仕切りを装備した小型冷凍バンを開発させていただきました。今後も魅力のある冷凍車の開発を引き続き行うとともに、積極的な営業活動を通じて当社の冷凍車をお客様にお届けしていきたいと考えております。

お客様のお役に立つ存在として

お客様に信頼され、頼れるパートナーであり続けること、それが私たちトランテックスの使命であり、私たちに出来ることは安全・品質を業界トップレベルに引き上げ、維持し、トランテックスならではのトータルサポートの向上を図り、引き続きお客様のお役に立つ存在としてあり続けることと考えております。今後とも一層のご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

会社概要 (2015年3月31日現在)

株式会社 トランテックス

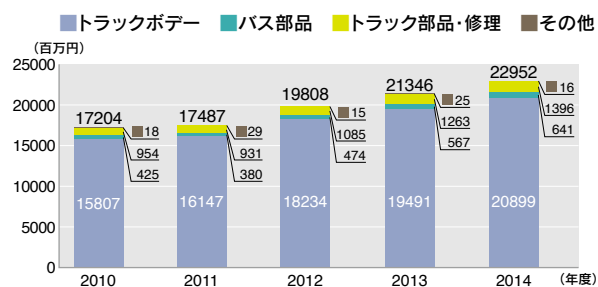
- 所在地 石川県白山市徳丸町670番地
- 設立 1930年3月
- 創立 2002年10月
- 資本金 11億円
- 従業員数 996名
- 製品 トラックボデー、特殊車両



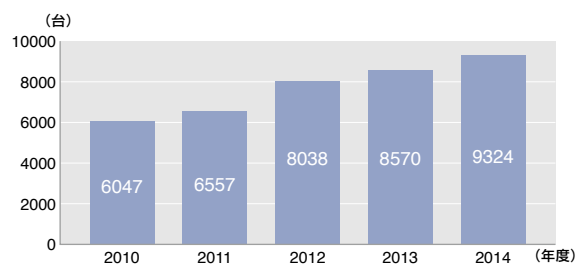
本社・工場全景

- 敷地面積 103,289㎡
- 延床面積 50,011㎡

売上高推移



トラックボデー生産台数推移



主要製品



ウイングシリーズ



パンシリーズ



ブロック焔シリーズ

トランテックス基本理念

基本理念は会社の使命と基本方針からなり、私たちトランテックスが社会の中で存在する意義、社会に対して果たすべき責任や方針を明確にしております。

会社使命

- 地球環境に配慮し、輸送文化を創造し、未来社会に貢献する
- お客様に信頼され、頼れるパートナーとして輸送・物流をリードする

基本方針

- 人と地球環境に配慮し、社会とのつながりを大切にする
- 常に技術革新に努め、お客様のお役に立つ商品やサービスを提供する
- 変化を的確に捉え、社会との調和を図り、グローバルな視点で事業展開を行う
- 社員の能力を最大限に発揮し、プロ集団としての総合力を高める

商品紹介

■充実装備の即納冷凍車「VQクール中型冷凍バン」

充実した装備と短納期、そして価格面でお客様にご満足いただける完成車シリーズ（VQシリーズ）に中型冷凍バンが仲間入りし、中温生鮮食品向けタイプと低温冷凍食品向けタイプの2種類を揃えております。冷凍車の生命線である温度管理については、断熱材にはポリスチレンフォームのサンドイッチパネル構造を採用することで、断熱材の厚さと高性能の冷凍機により夏場の輸送でもしっかりと対応できるようになっております。

各種装備については多くのお客様のご希望に添えるように充実させていただいており、主な装備として内装品の側ラッシングレールをアルミ製の2段、リアドアには90度ストッパ、テールゲートリモコン格納ボックスの庫内への配備、バックカメラやステンレス製中型工具箱の採用、そして床張りはアンチスリップフロアタイプとキーストンタイプをご用意させていただきました。これからもお客様の使いやすさを最優先に、価格面でも十分満足していただくような完成車シリーズを充実させていきたいと考えております。



VQクール中型冷凍バン



中温タイプ側面方向の外観



バックカメラは7インチのカラーモニタ



低温タイプ側面方向の外観



中温タイプの側扉全開時の外観。側扉は片開き式（W=1200mm）



ステンレス製中型工具箱



低温タイプの側扉全開時の外観。側扉は観音扉・前方先開き式（W=1800mm）。



中温タイプの床はアンチスリップフロアタイプ



リアドア全開時の外観



低温タイプのキーストンタイプ



テールゲートリモコンは庫内の格納ボックスに収納が可能



テールゲートは床下格納式



リアドアの90度ストッパ

■観音扉式移動間仕切り搭載小型バン

庫内を前後の二温度帯で管理されたいお客様のニーズにお応えするため、観音扉式移動間仕切りを搭載した小型バンをご提案させていただいておりますが、従来のものに比べてより高い断熱性・機密性・防錆力と軽量化を実現いたしました。断熱性・機密性を高めるため、サイドドアと側パネル・屋根との隙間に対してはフレームを断熱材で覆い、またシールゴムを二重で取り付けて、外気温の庫内への侵入を減少させており、防錆力に対しては側扉フレームにはステンレス白塗装を施すことで品質アップを図っています。リアドアに対しても、側パネルとの隙間に対して二重のシールゴムと樹脂部品で断熱効果を高めています。観音扉式移動間仕切りは断熱パネルとアルミ型材を使用したフレームで構成されており、従来品に比べて軽量化を実現できております。安全面への配慮としては、扉の閉め忘れを知らせる警告灯スイッチをキャブ内に取り付け、車幅灯にLEDを採用するなどさせていただいております。



二温度帯管理が可能な小型バン



観音扉式移動間仕切り全開時



移動間仕切りはラッシングレールに固定する



移動間仕切りはレールに沿って前後に移動が可能



リアドア全開時の外観



扉閉め忘れをお知らせする警告灯



車幅灯にはLEDを採用

フォーカス



開発部 開発設計グループ
鶴瀬 正博

観音扉式移動間仕切りの開発にあたり、前室・後室を遮る断熱性向上と移動操作性向上に力を注ぎました。まず、断熱性向上に対しては従来のステンレス材フレームから接着パネルとアルミ型材を結合する構造に変更させていただくことで対応し、断熱性だけでなく軽量化も実現しました。また、移動操作性向上に対しては、従来のステンレスレールとステンスローラーからアルミ型材レールと樹脂製ローラーに変更することで、軽量化とともに樹脂製ローラーの使用による転がり抵抗の軽減を図り、女性の力でも開閉や移動操作が容易に行えるようになりました。開発途中では構造変更に伴い、いくつかの課題も発生しましたが、様々な改善により解決し、実際にお使いいただいているお客様には高い評価をいただいております。

お客様

お役立ち活動

営業部門は本業であるボデー販売はもちろん、お客様の様々なご要望・お悩みにお応えし、お客様の本業の発展に少しでも貢献させていただきたいと考え、「お役立ち活動」を行なっています。「お役立ち活動」の一環で、お客様に当社の持つノウハウをご提供させていただく「お役立ちメニュー」に新しく「リアボデーお手入れ方法のご提案」「トランテックス改善事例のご紹介」「乗務員様マナー研修」「コンプライアンス講習」「体調管理講習」が加わり、全18種類に増えたことで、よりお客様のお役に立てる機会も増えるのではないかと考えております。引き続き、お客様の声に耳を傾け、お客様のお役に立てる営業活動をしていきます。



危険予知トレーニング



ウイングボデーメンテナンス



車両後退時の安全確認



テールゲートの安全な操作方法

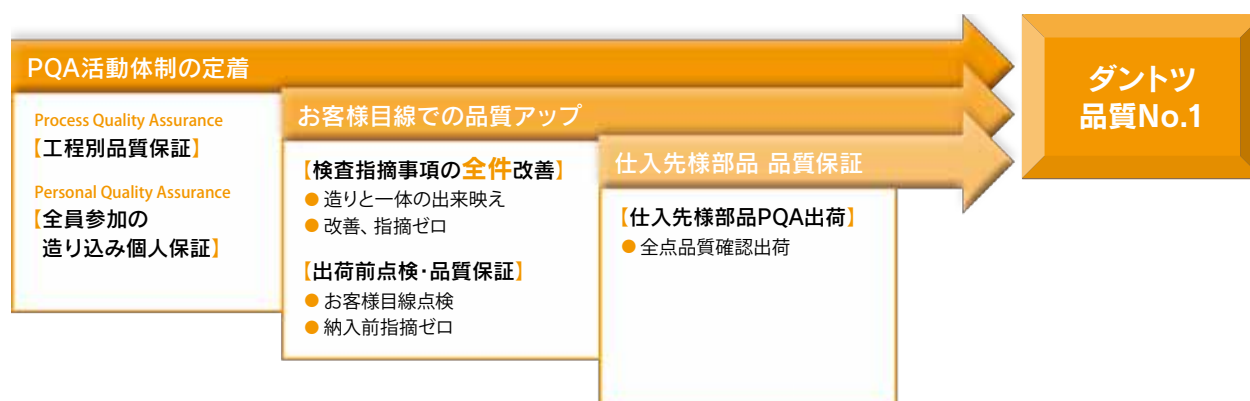
【トランテックスお役立ちメニュー 一覧】

項 目	内 容
冷凍バンの取扱いについて	予冷や庫内換気、日常点検等冷凍バンをお使いになる時の基本的な注意点をご説明します。
冷凍バンでの品質管理について	冷凍バンに荷物を積み時の注意点及び荷台のコンディションを保つためのポイントをご説明します。
冷凍ボデーのメンテナンス	ボデー各部の点検要領や各部シールの補修方法など現車で実際に点検しながらご説明します。
冷凍車の商品知識	構造や仕様、商談のポイントをご説明します。
ウイングの取扱いについて	開閉操作や荷物の積み方など、ウイングをお使いになる際の基本的な注意点をご説明します。
ウイングへの安全な荷積みについて	ウイング構造の特徴を紹介したうえで、構造的な要因から必要となる荷物を積み込む際の注意点をご説明します。
ウイングボデーのメンテナンス	各部の点検要領や油圧装置のメンテナンス方法を現車で実際に点検しながらご説明します。
ロールボックス輸送の注意点	種々の固定方法による荷台内でのロールボックス（ワゴン）の動きをビデオで紹介し、荷台への影響をご説明します。
車輛後退時の安全確認講習	バックミラーの死角やバックアイカメラのモニター映像の特性についてご説明します。
テールゲートの安全操作	事故事例を紹介しながら、操作する際の注意点、ゲート装着車の特性をご説明します。また、ゲート进行操作しながら、操作及び点検方法をご説明します。
荷卸し作業KYT	特に荷卸し作業をテーマとしてKYT基礎4ラウンド法によるグループ討議を行ないます。
TTS安全管理手法のご紹介	防災意識向上策や設備の点検方法など当社製造部で実施している様々な安全管理手法をご紹介します。
ラッシングベルト使用時の注意点	ラッシングベルトの縛り方による積荷への影響、ベルトのメンテナンス方法をご説明します。
NEW!! リアボデーお手入れ方法のご提案	リアボデーの頑固な汚れを落とす各種洗剤等をご紹介します。
NEW!! TTS改善事例のご紹介	トヨタ生産方式をベースにした作業の見直し方や省くべき作業の考え方を当社製造部の改善事例を用いてご説明します。
NEW!! 乗務員様マナー研修	服装・挨拶・言葉遣いを実際の業務をロールプレイングで再現しながらご説明します。
NEW!! コンプライアンス講習	コンプライアンスの必要性や普段の業務においてどのような事に気をつけるべきかを事例を用いてご説明します。
NEW!! 体調管理講習	運転に大きな影響がある睡眠・飲酒・肥満について自己診断方式や予防法をご説明します。

品質マネジメント

品質管理活動方針

当社では①PQA活動体制の定着②お客様目線での品質アップ③仕入先様部品品質保証の3点を具体的な取組み方針とした「ダントツ品質NO.1」を品質管理活動方針としています。



ダイヤモンド賞を受賞

当社は日野自動車株式会社様の出荷品質基準を満たした会社に送られるダイヤモンド賞を2014年度の活動に対して受賞し、今回の受賞により通算5度目の受賞となりました。今後も引き続き受賞できるように品質管理を徹底していきます。

フォーカス



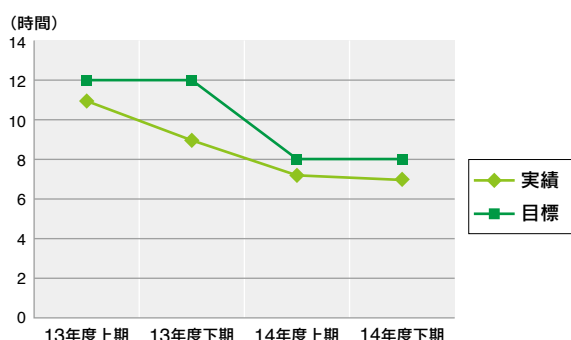
品質保証部 検査課 課長
米口 孝雄

当社の商品はお客様のご要望にオーダーメイドでお応えする一品一様であるため、当社の品質レベルは製造担当者の技量に影響を受け易く、品質管理部門としては担当者が替わる等の変化点管理に気をつけたり、より品質管理基準を明確にしたりするなどして対応をしています。また、市場が求める品質レベルが日々、高まってきており、いかに柔軟な対応をするかには苦労しています。そのような中でも、お客様に「いい車になっているね」等のお褒めの言葉をいただいたり、ダイヤモンド賞を受賞させていただいたりしたときは、この仕事を担当してよかったなと思います。

アフターサービス

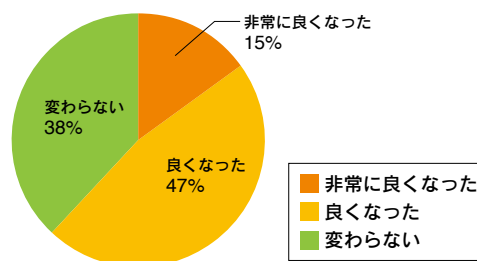
サービス部門ではアフターサービスNO.1に向けて、お客様に商品をお届けした後もお客様の身近な存在として、全国の販売会社様、SS店様と連携しながら、すばやく正確な修理を実施させていただくことで、お客様にご満足いただけるアフターサービスを目指しております。当社ではお客様に有が発生した際の初動対応のスピードアップや新車納入後3ヶ月でボデーの無料点検を実施する巡回サービスに力を入れています。初動対応については、お客様のもとに到着するまでの時間（ボデータッチタイム）が2013年度と2014年度を比較すると、約4時間の改善をすることができました。これからもお客様にご満足いただけるアフターサービスを目指して取り組んでいきます。

【初動対応タイムの推移】



【お客様へのアンケート結果】

Q：当社のサービス対応は前年の2013年度と比較してどう変化しましたか？



フォーカス



部品・サービス部
サービス課 課長
畑 久志

お客様に有が発生した時の初動対応スピードは、数値管理の導入により部署内にスピードに対する意識が浸透してきているのを実感できています。また、巡回サービスは有事対応時とは違って、お客様に対して心に余裕をもって楽しみながら実施できており、また、巡回時にお客様に適切なアドバイスを差し上げることで未然に不具合を防止することもできていることから、お客様からも厚い信頼をいただくきっかけにもなっております。しかし、よりお客様にご満足いただけるアフターサービスをお届けするには、当社の人材だけでは足りないところもでてきますので、積極的にご協力いただけるSS店様の開拓が課題となっております。

従業員

人材育成

入社時研修

当社に入社した方は専門部署による安全講習を実施し、安全に対する考え方や安全な作業について理解・習得を図っています。新入社員の受け入れ時にも十分な教育を行っており、安全教育・技能教育基礎知識・トヨタ生産方式基礎講座・危険予知トレーニング講座・技能教育等の機会を通じて、安全第一に行動できる人材育成を行っています。



製造部門での階層別研修

製造部門では階層別研修として工長・職長研修を毎年実施しております。2014年度は「全員参加の安全活動」をテーマに講義やグループ討議を通じて、各職場がより安全な職場になるためにはどうしたらいいのかについて理解を深め、スキルアップを図りました。今後も各人のスキルアップやモチベーションアップに向けた各種研修等を実施し、様々な環境変化に対応できる人材育成を進めていきます。

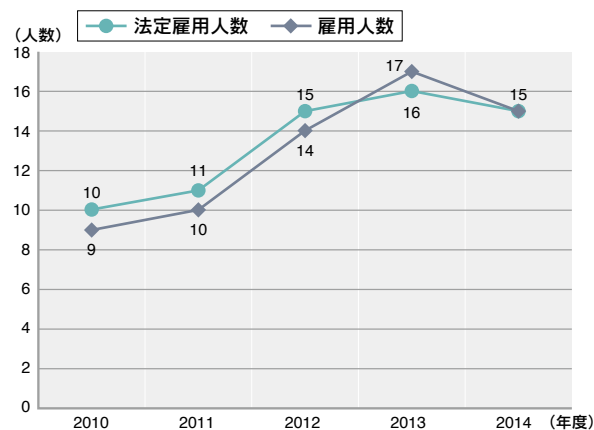


雇用促進

障害者雇用への取り組み

2014年度は障害者法定雇用人数15名に対し、15名の雇用となりました。引き続き、製造部門を中心に働きやすい環境整備を進め、一人でも多くの方の雇用・定着に繋がるよう取り組みを進めていきます。

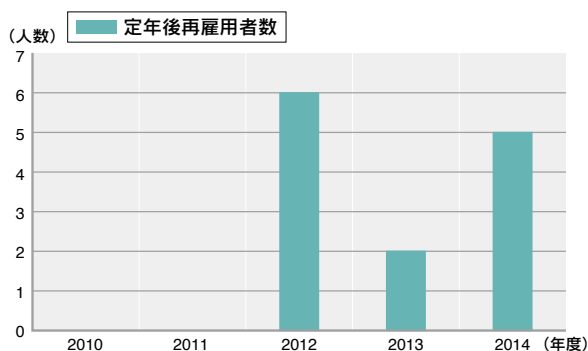
【障害者雇用人数の推移】



60歳定年後の再雇用への取り組み

当社では定年退職者の方がもつ技術を積極的に活かすため、再雇用を進めています。当社の商品は一品一様のため技術の習熟にも時間がかかり、品質維持向上のためには高い技術を持つ従業員が一人でも多く必要です。現状では13名の雇用ですが、今後も継続的に再雇用を進め、雇用者数の増加を図っていきます。

【定年後再雇用者人数の推移】



正社員登用への取り組み

多様な人材を様々な年代・経歴から採用するため、従来から行っていた新卒採用に加えて即戦力としてのスキルを保有する方を対象とした中途採用、そして期間従業員として勤務している方の中から本人の希望と職場からの推薦があった方を対象とした正社員登用を積極的に行っております。

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
新卒採用	0	0	21	18	20
中途採用	0	1	4	3	9
期間従業員の正社員登用	0	9	12	12	35

健康維持・増進

当社では従業員の健康維持・増進を図るため、いくつかの施策を行っております。

	実施項目	実施内容
1	入社時指導	入社時の健康診断結果をもとに、生活改善指導が必要な従業員を対象に、産業医・看護師による指導を実施しています。
2	特定健康保健指導	健康保険組合の協力のもと特定保健指導対象者をリストアップし、全国訪問指導協会から保健師の派遣を受け、保健師と対象者が個人面談を通じて生活改善を図っています。
3	メンタルヘルス対策	セルフケアをベースにしながら、長時間労働者を中心として各職場長によるラインケアや産業医・看護師によるケアを組み合わせ、メンタル不調の従業員の未然防止と早期職場復帰を図っています。
4	データヘルス計画 (2015年度～)	健康保険組合と医療外部機関の協力のもと健康診断結果とレセプト内容のデータ分析をしていただき、傾向と対策方法を企業や個人に情報提供いただくことを予定しております。
5	ストレスチェック制度 (2015年度～)	年1回の頻度で従業員に対して、心理的な負担の程度を把握する検査を実施予定です。

フォーカス



総務・人事部 看護師
吉田 ゆかり

当社診療所に勤務して10年目となりました。日々、会社の皆様に支えられ、ご協力していただいていますことにとても感謝しております。

私が就任した頃と比べると、怪我も減少し、健診の異常者もほとんどいなくなりました。各職場でのメンタルヘルス対応にもご理解いただき、対象者の方が早期に復職していただいていることをとても嬉しく思います。それらは従業員の皆様の安全や健康に対する意識の底上げがなされた賜物です。“皆様が毎日、元気で生活が送れること！”それが私の願いです。微力ながら、これからも努力してまいりたいと思います。

健康づくり施策として7年前から特定保健指導が実施されました。2015年度からはデータヘルス計画で皆様の健診データ分析により効果的な健康作り事業が行われ、ストレスチェック制度も始まりますので、これからもご協力をよろしくお願いいたします。

労使関係

トランテックスとトランテックス労働組合は定例の労使会議を持ち、様々な検討を重ね、労働条件の改善に努めています。また、労働組合側からの職場環境改善要求を通じて職場環境は年々改善されてきております。

安全衛生

安全衛生への取り組み

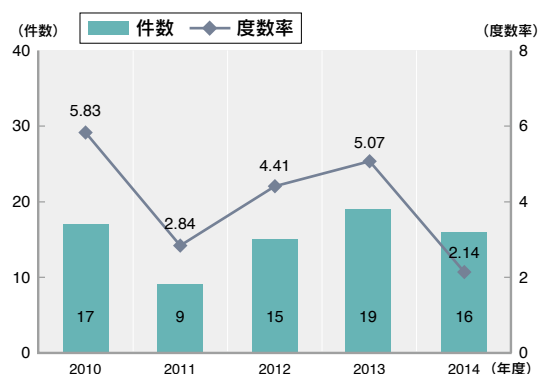
当社は「安全は全てに優先する」を安全衛生基本理念に掲げ、総括安全衛生管理者をトップに産業医と連携しながら、「人への安全意識向上」「快適職場環境づくりの推進」「心身の健康管理」「通勤災害の防止」の4つの観点から各種取り組みを実施することで、自主自立の安全文化構築を進めています。2014年度の災害件数は16件、度数率は2.14となり、前年比では低減したものの、依然として高い水準で推移しておりますので、従業員がより安心・安全に働けるように引き続き災害発生の防止を図っていきます。

安全衛生基本理念

「安全は全てに優先する」

- 安全なくして、企業の発展なし
- ルールを守らずして、安全なし
- プロとしての自覚なくして、安全なし

【災害発生件数と度数率】



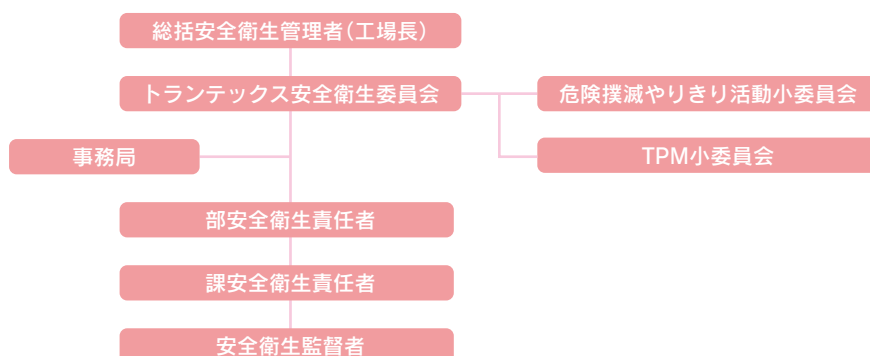
工場の入口にある安全の門



安全衛生大会の様子

安全衛生組織

当社では安全衛生活動を円滑に推進するために、トランテックス安全衛生委員会を毎月1回開催しており、委員会構成メンバーは委員長（工場長）、副委員長（うち1名は労働組合委員長）、会社側選任の従業員、労働組合側選任の従業員、産業医、及び各子会社代表者となっています。また、トランテックス安全衛生委員会の下には2つの専門小委員会を設置し、効率的に且つ重点的に活動を行う体制を整備しています。



安心・安全な職場づくりのために

安全意識向上と職場環境改善を目的に、週1回の管理監督者による安全パトロールに加え、各職場に潜む危険有害要因の洗い出しとその要因に対するリスク評価を行うリスクアセスメント活動を行っています。安全パトロールで発見された事項に対応することはもちろん、リスクアセスメント活動で特定されたリスクに対しても、重要度が高いものから対策を取らせていただき、継続的改善を図っています。



安全パトロールは毎週実施



リスクアセスメントで特定されたリスクに対しては、各職場ごとに改善指導を実施

AED教育

従業員の心肺停止の緊急時に備え、社内にはAED（自動体外式除細動器）を2台配備しており、従業員に対しては継続的な教育を実施しています。2014年度は43名を対象に行い、心肺停止時の対応方法の基礎知識やAEDの使用方法について習得いただきました。



講師の指導に真剣に耳を傾ける参加者



チームに分かれ、AEDを使って実践

環 境

環境マネジメント

環境基本方針

トランテックスは、地球環境の保全を経営における最重要課題の1つであるとの認識のもと、2003年10月、企業理念に基づく「トランテックス地球環境憲章」を制定し、環境保全活動を積極的に進めています。

■基本方針

1. 地球環境の保全を総合的かつ長期的に進める

地球環境問題は、重要かつ深刻であるとともに、自動車は広い範囲でこの問題に関わっているとの認識のもとに、全社を挙げて、仕入先様等の関係者とも協力して、開発から生産、販売、使用、廃棄に至る全ての段階における環境への影響を考慮した環境保全のための対策を、長期的視点に立って推進する。

2. 地球環境の保全を広い視野で身近な行動から進める

豊かで住みよい地球をめざして、事業活動の範囲内だけでなく、社会においては良き市民として、地域社会においては良き隣人として、環境保全のための行動を進める。

■行動指針

1. 環境負荷のより小さい事業活動をめざす

- 工場・事業所の立地における環境への配慮
- 地球環境にやさしいトラックボデーの開発
- 排出物を極力出さない生産活動
- 省エネルギーと省資源、リサイクルの推進

2. 関係者と協力しながら進める

仕入先、関係会社等と協力し、事業活動の様々な段階において、また、事業所の内と外とにおいて、環境保全に努める。

3. 社会への貢献を心がける

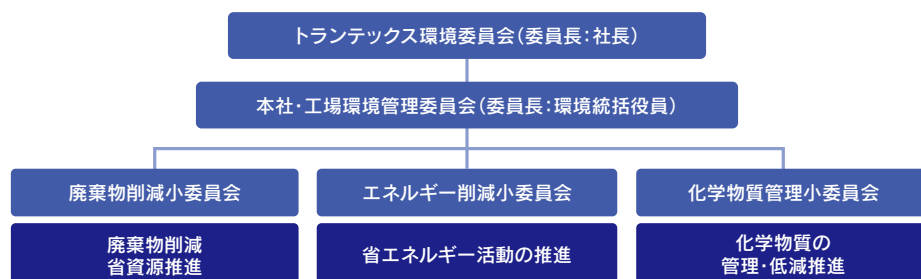
社会においては良き市民として、また、地域社会においては良き隣人として、社会や地域における環境保全の諸活動に協力する。

4. 自己啓発を図る

社会に対して開かれた企業として、また、企業人であるとともに良き市民として、地球環境問題に関して広く社会に学び、会社ならびに社員ともに自己啓発を図る。

マネジメント推進体制

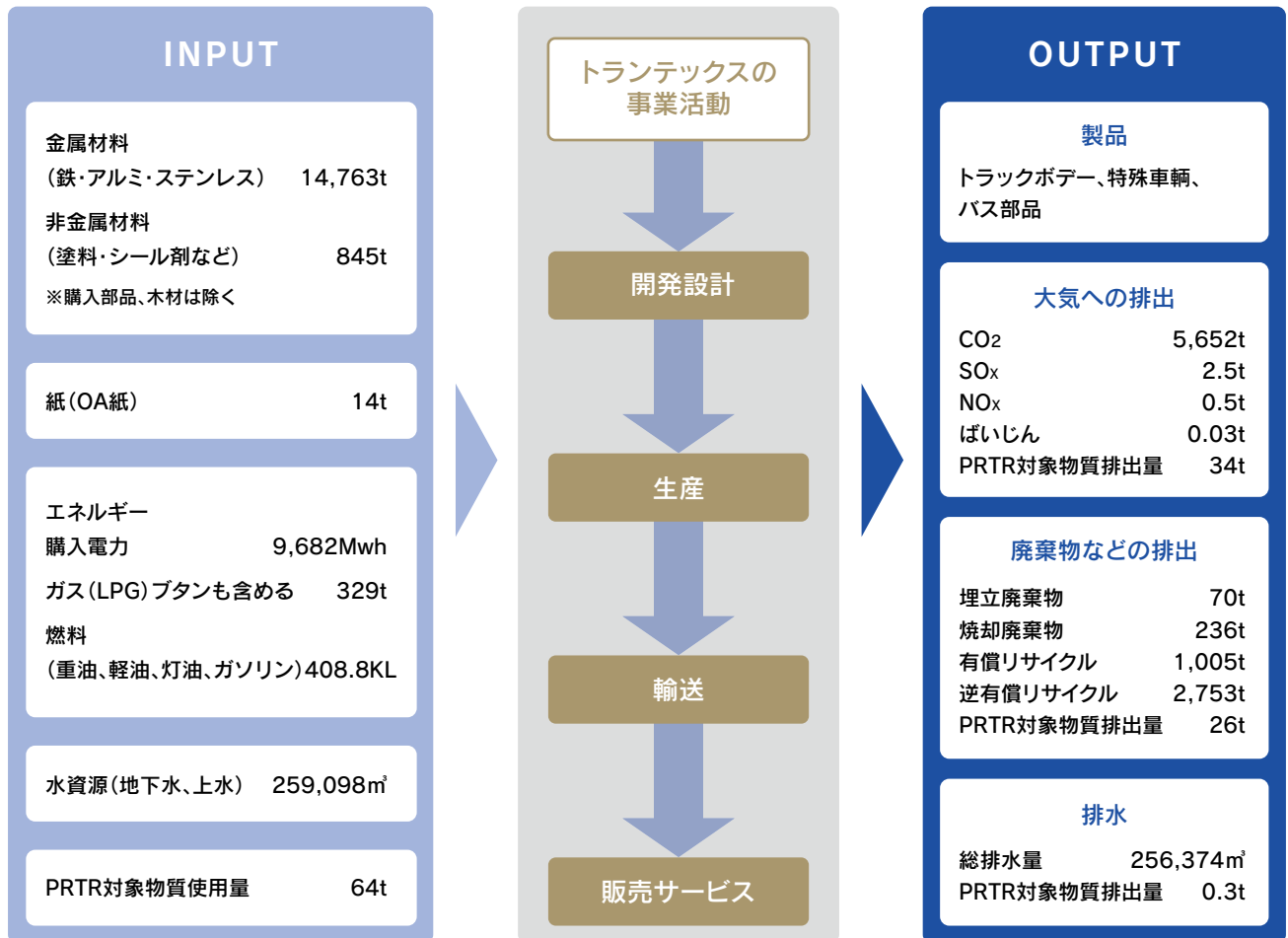
トランテックスは、環境保全を推進するため、全社的組織として社長を委員長とする「トランテックス環境委員会」を設置し、基本方針の決定と諸活動の総合推進を図っています。また、下部組織として本社・工場環境管理委員会と3つの専門委員会を設置し、本社・工場環境管理委員会は、原則毎月開催とし各種課題の進捗管理・検討・審議等を行なっております。また、3つの専門委員会は、事業活動による環境負荷の低減として大きな課題であるCO₂低減・VOCなどの化学物質低減・廃棄物低減などの個別の専門テーマに対して、部門横断的な視点からアプローチをしています。



事業活動と環境影響

事業活動における投入資源（インプット）と排出による環境負荷（アウトプット）を定量化し、環境への影響を把握して、環境負荷低減活動に活用しています。

【事業活動における2014年度の投入資源と環境への排出】



PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) : 有害化学物質排出・移動登録制度
SO_x: 硫黄酸化物 NO_x: 窒素酸化物

環境保全コスト

環境保全コストおよび効果を定量的に把握し、環境保全活動に効果的かつ継続的に取り組むため、環境会計に取り組んでいます。環境省「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に、当社の基準にて算出しました。尚、環境保全コストは①投資額は対象期間の投資のみとする②経費の中に減価償却分は含めない③環境保全以外の目的を含んでいる設備投資や費用については、環境対応分が明確に把握できるもののみ計上することとしました。環境保全対策にともなう経済効果については、把握可能な項目のみ集計しました。

【2014年度の環境コストの集計結果】

[単位:百万円]

		2012年度		2013年度		2014年度	
		投資額	費用	投資額	費用	投資額	費用
事業エリア内コスト	公害防止コスト	10.3	6.1	8.1	8.3	114.6	8.6
	地球環境保全コスト	9.1	—	17.4	—	15.6	—
	資源循環コスト	—	58.0	2.3	65.2	8.4	74.3
上・下流コスト		—	—	—	—	—	—
管理活動コスト	EMSの整備、運用	—	5.7	—	1.7	—	1
	環境測定	—	—	—	3.6	—	3.5
	従業員の教育	—	—	—	—	—	—
	景観保持	—	—	—	—	—	—
研究開発コスト		—	10.2	—	—	—	6.1
社会活動コスト		—	—	—	—	—	—
環境損傷対応コスト		—	—	—	—	—	—
合 計		19.4	80.0	27.8	78.8	138.6	93.5

【2014年度の経済効果の集計結果】

[単位:百万円(—は十万円未満)]

経済効果	2012年度	2013年度	2014年度
リサイクルによる事業収入	71.9	87.0	88.9
省エネルギーによるエネルギー費の節減	3.7	3.7	1.2
省資源又はリサイクルに伴う廃棄物処理費の削減	—	7.3	—

【2014年度の物流効果の集計結果】

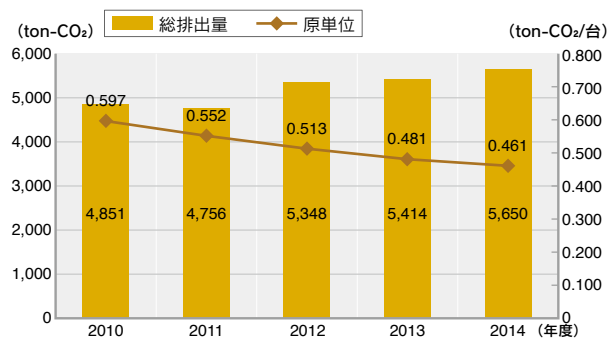
[単位:百万円(—は十万円未満)]

物流効果	2012年度	2013年度	2014年度
二酸化炭素 (t-CO ₂)	—	—	—
廃棄物総排出量低減 (t)	—	182.8	—
PRTR対象物質排出量・移動量削減 (t)	—	1.5	—

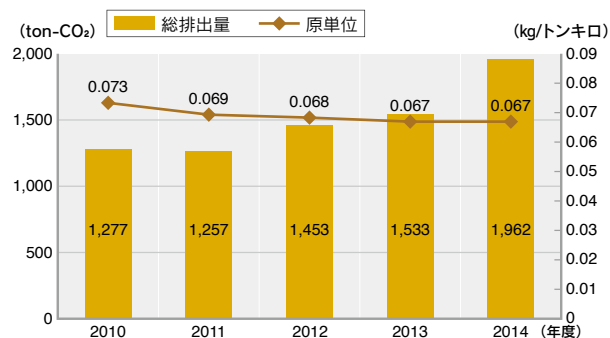
環境パフォーマンスデータ

当社の2014年度も含めた近年の環境パフォーマンスデータは次の通りです。生産量の増加に伴い、排出総量はほとんどの項目で増加となりましたが、生産台数当たりの総排出量を示す原単位実績は、排出物・VOC以外の項目で前年度実績を上回ることができました。今後も環境負荷を減らせるように、引き続き環境パフォーマンス改善に向けて、取り組んでまいります。

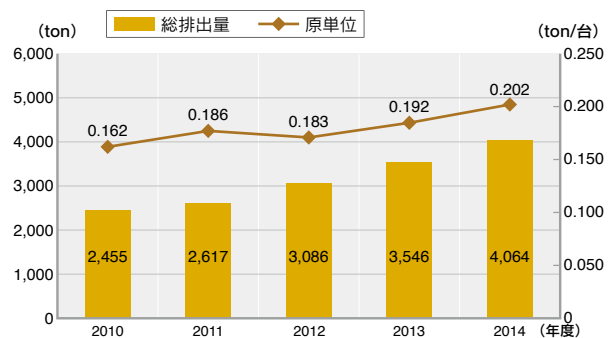
【生産CO₂】



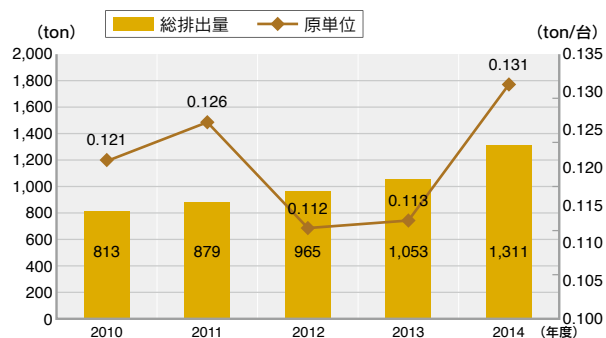
【物流CO₂】



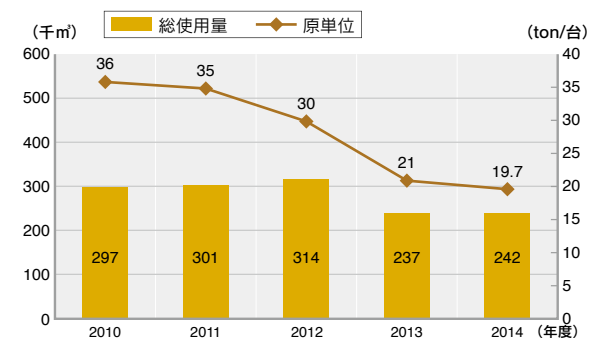
【排出物】※1



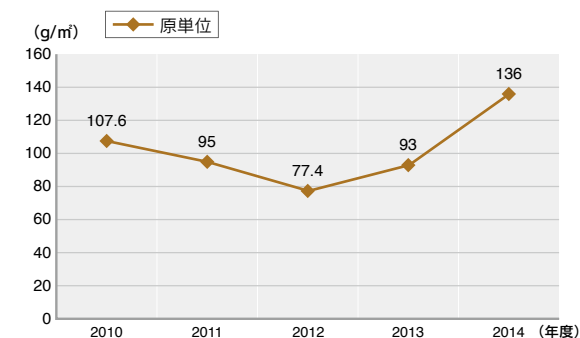
【廃棄物】※2



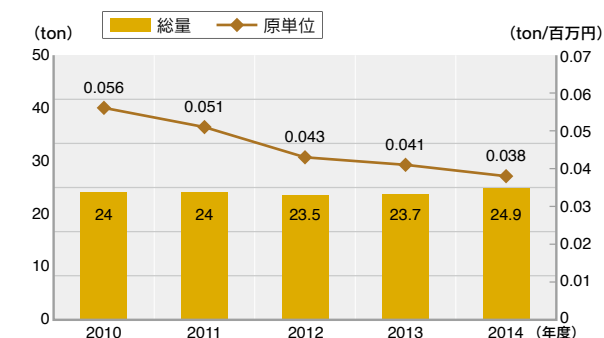
【水使用量】



【VOC】※3



【物流梱包包装資材】



※1

排出物＝有償リサイクル＋逆有償リサイクル＋焼却＋埋立

※2

廃棄物＝逆有償リサイクル＋焼却＋埋立

※3

VOC(Volatile Organic Compounds)：揮発性有機化合物

環境目標と実績

			取り組み内容	2014年度環境目標	2014年度実績
環境経営			ビジネスパートナーと連携した環境活動を推進する	グループ会社との環境情報の共有化	子会社環境データを取得
			環境教育活動の充実と推進を図る	自覚教育・専門教育と啓蒙活動を実施する	全部署での教育実施
				営業員への環境教育を実施する	集合研修時に営業員へ教育を実施
			環境情報の積極的な開示とコミュニケーションの充実を図る	環境情報の発信	CSRレポート発行完了
				近隣住民とのコミュニケーション実施	近隣町内会の役員の方を交えて懇談会を開催
			異常苦情ゼロ・リスクの最小化を図る	環境重要施設の日常点検を強化する	環境管理責任者（環境管理者）による定期確認を週1回実施
				リスク低減活動の推進	対象リスクへの対策完了
環境保全と自然共生社会の構築	生産	生産活動における環境負荷物質を低減する	VOCの低減	原単位目標 91 g/m ³	原単位実績 136 g/m ³
	社会との連携	自然共生社会構築に資する社会貢献活動を推進する		社外ボランティア活動への参加	「クリーンビーチいしかわ」に従業員およびその家族で参加
				継続的なボランティア清掃の実施と全従業員の参加	全従業員が清掃活動に参加
低炭素社会の構築		生産活動における省エネ活動の徹底と温室効果ガス排出量の低減	生産CO ₂ の削減	原単位目標 0.476CO ₂ -ton/台以下 省エネ対応器械への更新 設備更新の実施	原単位実績 0.461CO ₂ -ton/台 蛍光灯のLED化 コンプレッサーの圧力適正化 老朽塗装設備の更新
		物流活動における輸送効率の追求とCO ₂ 排出量の低減	物流CO ₂ の低減	原単位目標 0.0681kg/トンキロ以下 トレーラー活用による輸送効率化	原単位実績 0.0665kg/トンキロ ボデー運搬時のトレーラー活用
循環型社会の構築	生産・物流における排出物の低減と資源の有効利用		排出物の低減	原単位目標 0.179ton/台以下 金属の歩留まり改善	原単位実績 0.202ton/台 金属の歩留まり改善の実施
			廃棄物の低減	原単位実績 0.111ton/台以下 有償リサイクル化の推進	原単位実績 0.131ton/台 逆有償リサイクルアイテムの有償リサイクル化
			物流梱包材の低減	原単位目標 0.0414百万円/台以下 小物部品発送にメール便の活用する 梱包材を簡素化する	原単位実績 0.0381百万円/台 メール便の積極的な活用 梱包材を出来るだけ簡素化する
			水使用量の低減	原単位目標 19.2ton/台以下 埋設配管からの漏水量を低減する	原単位実績 15.2ton/台 埋設配管の漏水ヶ所の修繕対応

省資源・省エネルギー・水質保全

リサイクル・省資源

塩ビ素材の廃材は従来、焼却処理段階で塩化水素が発生するためサーマルリサイクルができず、埋立処理をしていました。2014年度は単体分別の徹底とマテリアルリサイクルルートの確保により、有償処理が可能となりました。引き続きマテリアルリサイクルが可能なアイテムの発掘を進め、環境にやさしい廃棄物処理を行っています。



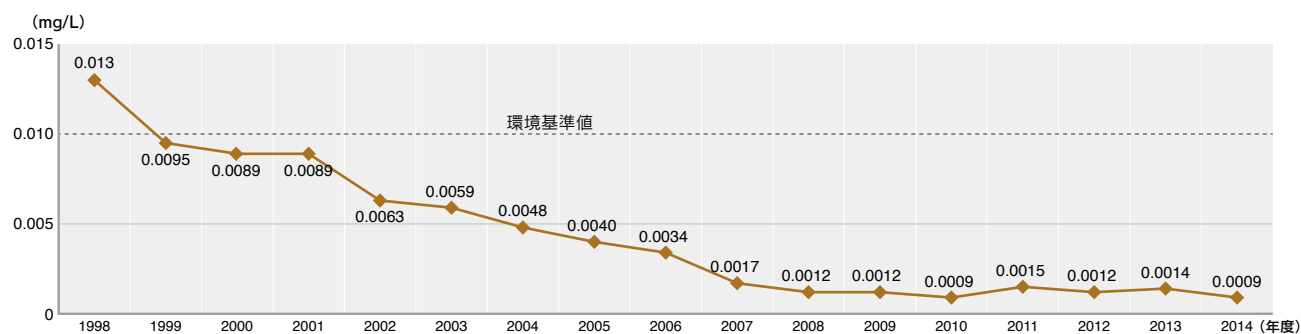
省エネルギー

工場内・事務所内にある蛍光灯及び水銀灯をLED等の省エネルギータイプのものへの切り替えを2012年度から実施しております。2014年度は工場内の6棟分として1348灯の切り替えが完了し、全体としては約30%の切り替えが完了しました。今後も計画的に切り替えを進め、省エネルギー化を進めていきます。



地下水保全への取り組み

当社では、過去に有機塩素系化合物であるテトラクロロエチレンを使用しており、1996年に使用を全廃致しましたが1998年に本社・工場敷地内の1ヶ所で環境基準を上回るレベルが確認され、1998年以降行政指導の下、積極的に浄化対策を進めています。土壌内の汚染ガスの吸引及び地下水揚水による浄化対策の結果、濃度は低位で安定しております。



調 達

基本的な考え方

当社は当社製品が業界トップの位置を確保できるよう、仕入先の皆様と協力して、ともに発展していくことをめざしています。仕入先様には、コスト・品質・納期の最高レベル実現に向けた調達方針を提示するとともに公正な取引の維持を心がけています。

調達方針

当社の商品が、最高の価格競争力を確保できるように、広く世界に門戸を開き、最適な仕入先を選定することにより、

1. ミニマムな価格
2. 最高の品質
3. タイムリーな納期

を実現し、商品の拡販と当社の収益拡大に貢献する。

仕入先様との交流

当社では毎月、仕入先様と仕入先会議を開催し、生産計画の情報提供と品質アップのための仕入先様による品質改善事例発表会を行っています。その他、工場内および周辺での交通ルールの遵守やマナー向上の呼びかけなど、地域社会との共生に係わることにについても展開を行っています。

また、毎年1回、仕入先総会を開催し、当社の年度方針・調達方針をお伝えさせていただき、また年間を通じて原価改善活動や品質管理活動にご功績をあげていただきました仕入先様を表彰させていただいております。



多くの仕入先様にご出席いただいている仕入先総会



表彰式の様子

社会貢献活動

海岸清掃活動

石川県海岸全域の清掃活動「クリーンビーチいしかわ in はくさん」に参加し、2014年度は130名を超える参加者となりました。

今後もこのような地域イベントへの積極的な参加を続けていきたいと考えております。



会社見学の受入れ

小学生・高校生・各種団体様に会社見学にお越しいただいております。小学生は社会科学習での「ものづくり」を実際に学ぶ機会として、高校生は製造業で働くという職業観を養う機会として、また、各種団体様は様々な学習目的の一環としてご利用いただいております。

これからもご来社いただく方々のご一助となれますよう、積極的に取り組んでまいります。



工場周辺清掃活動

本社工場周辺道路を中心に、毎月1回清掃活動を行なっています。勤務時間前の30分程度の時間を利用しておりますが、毎回、多くの従業員に参加していただけており、近隣の美化に貢献させていただくだけでなく、従業員のボランティア意識の向上にもつながっており、引き続き実施していきたいと考えております。

学生スポーツの支援

青少年の健全育成と能力向上支援のため、卓球部の選手が指導を行わせていただいております。現在は石川県内の数校に定期的に訪問させていただき、学生との交流を続けています。

コンプライアンス

当社ではコンプライアンスの実践を経営の重要課題と考えており、全社的なコンプライアンス風土醸成のに向けた取り組みを継続的に実施することで、あらゆる場面で公正な判断・活動ができる企業集団を目指していきます。

「トランテックス行動指針」

「トランテックス行動指針」は、基本理念の内容を受けて、各ステークホルダーの皆様の期待に応えるために「社員一人ひとりがどう行動すべきなのか」を具体的に明記した内容となっております。

当社では、この「トランテックス行動指針」を日々の仕事の手引書として活用し、また合わせてコンプライアンスガイドブックを活用することで、法令順守を徹底していきます。そして、各ステークホルダーの皆様の期待にお応えしてきます。



コンプライアンス教育

役員・管理職を対象としたコンプライアンスに関する講演会を開催し、コンプライアンスに取り組む必要性やコンプライアンス違反の予防と発生時の対応、労働時間管理やパワーハラスメント、セクシャルハラスメント等の労務管理の重要性について理解を深めました。また、全従業員を対象としても朝礼時間を利用してコンプライアンス教育を行い、営業担当者向けには、独占禁止法や不正競争防止法に焦点を当てた教育も行いました。今後も継続してコンプライアンス教育を実施し、コンプライアンス違反のない職場作りを行っていきます。

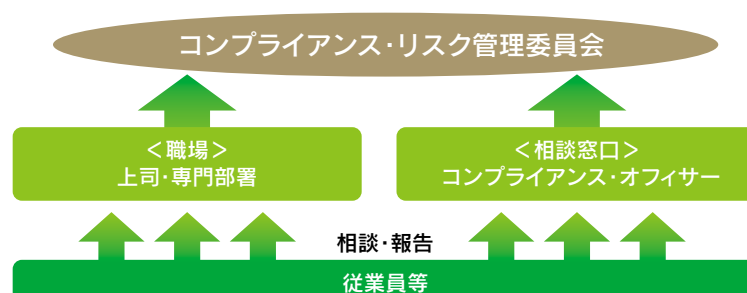


外部講師を招いたコンプライアンス講演会

コンプライアンス相談窓口

従業員がコンプライアンスに関する問題に遭遇した場合、職場を補完する相談先として、コンプライアンスオフィサーを設置し、社内への周知を図っています。従業員等は直通の電話またはE-mailにてコンプライアンスオフィサーに直接相談・報告することができます。また、日野グループとして、外部の法律事務所への相談窓口も設けられています。

【参考：従業員の相談・報告ルート】



コーポレートガバナンス

当社は基本理念に基づき、各ステークホルダーの皆さまの期待と信頼に応えるため、コーポレートガバナンスの強化を経営の最重要課題と考えております。具体的には経営の透明性を確保するため、株主総会・取締役会・監査役・会計監査人などの法定機関の設置を行い、また迅速な環境変化への対応と意思決定を図るため、経営判断に基づく業務執行レベルの判断を行う執行役員会を毎週開催するなどの体制を構築しております。

取締役会

会社法で定める重要事項や経営に係わる重要事項の審議決定機関として、原則毎月1回開催しています。また、取締役の任期は、経営責任を明確にするため1年とし、非常勤取締役を1名選任しております。

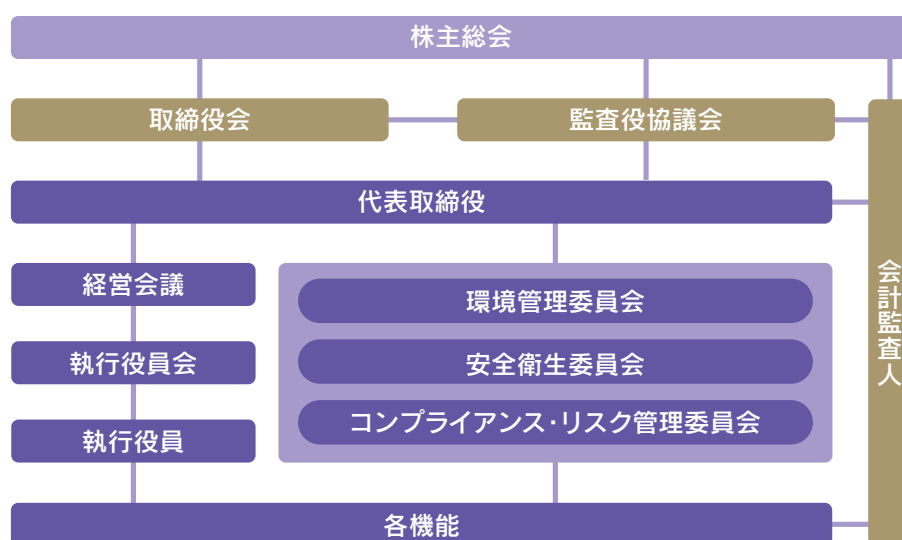
監査役協議会

取締役会の監督機能をより強化するため監査役協議会を設置し、常勤監査役1名と、2名の非常勤監査役で構成しております。

会計監査人

2014年度はあらた監査法人を選任いたしました。

【コーポレートガバナンス体制図】



編集にあたって

本レポートは、当社を取り巻くステークホルダーの皆様にご理解をいただき、さらなる信頼をいただくことを目的としています。お読みいただいた皆様とのコミュニケーションツールとして、わかりやすく表現するよう心がけました。

対象範囲・対象期間

原則として2014年度（2014年4月～2015年3月）の実績や取り組みを対象としております。但し、一部の内容については、本レポート発行直前までの活動も記載しています。

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告書ガイドライン（2012年度版）」を参考にし、編集しています。



Corporate Social Responsibility Report 2015

本報告書の内容や当社の環境への取り組みなどについて、ご意見、ご質問などがございましたら、下記までお問合せください。

株式会社 **トランテックス** 総務・人事部

〒924-8580 石川県白山市徳丸町670番地
TEL(076)274-2806 FAX(076)274-8191

ホームページアドレス <http://www.trantechs.co.jp/>

発行日 2015年 10月

※この報告書はトランテックスホームページ上でもご覧いただけます。

